春季自然体験学習(2 年生)に向けての下見　報告

2025.5.9　吉田小恵子

日時；2025年5月9日　９：３０～１１：３０

参加者；坂本、平山、沼田、池田、笠間、新宅、藤裏、小山、鹿本、仲谷、樋口、高橋、吉田

計１３名

下見の目的；１ 年生で校庭をまわり、主に植物のふしぎ、面白さなどを学んできた。２ 年生では、主に生き物同士のつながりに目を向けるようにしたい。主要な木、５本選定する。

＜末広小学校＞

◆校庭

昨年の下見では、刈込がなされてなくて観察に良い状態であったが、今年は主にウバメガシが刈りこまれ、比較的刈込が少ない木を観察対象とする。下草もかなり刈られており、数多く見られた実生はあまり見当たらなくなっていた。それでも、多種の木でいろいろな観察ができる。

◎プラタナス；茶色の去年の実がたくさんぶら下がっている。スズカケノキともいう。茶色の実を手に取ると、たくさんの綿毛のついた実がぎっしり。手に取らせて見せたい。

◎アラカシ；今年の小さい実が確認できる。

◎クスノキ；全面に花が咲いている。新芽のやわらかさ。古い葉のついていた枝がたくさん落ちている。枝の付け根、葉をちぎって、においをかぐ。虫に食われなど傷がつくとにおいを出す。虫に食われるのを防ぐ。

・ウバメガシ；全体が残る１本の木。去年の実（数ミリ）と今年の実（点）がよく探すとみつかる。

・ナツヅタ：フェンスに広がっている。昨年秋赤く色づいたのを見ているはず。今は緑色。

・ウメ；実がたくさんついている。

・オオシマザクラ；赤い実（サクランボ）がたくさんついている。葉っぱは塩漬けにして桜餅に使う。

・アオギリ；上の方１／３ぐらいが刈りこまれている。花や実は期待できない。（ビオトープのあおぎりは健在）

・シュロ：花が咲いている。幹の繊維質の皮がはがれる。たわし、箒など。下に、子どものシュロが多数。種から育ったとみられる実生が多数。

◎ユズ（ビオトープへ行く途中）；花が咲いている。アゲハの幼虫。ナミアゲハが卵を産み付けている場面を見ることができた。

◆ビオトープ

水の中には、メダカなど。デンジソウ、ウチワゼニクサ、フトイ(ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科)、ハナショウブなど。

◎カキノキ；雄花がたくさん咲いている。落ちている。大きくてガクの大きな花は雌花である。

・ザクロ；昨年の実。

ウバメガシ　今年の実

ウバメガシ　去年の実

ナミアゲハの卵

ナミアゲハの幼虫

フトイ

＜光明小学校＞

昨年の刈込みからの回復はある程度見られるが、アラカシ、ウバメガシはまだまだ。実は見つからない。校庭の下草はかなりしっかりと刈られていて、タンポポ等も少ない。

体育館の周辺など、いくつかの場所で工事が進められており、校庭をくまなく探検とはならない。

◆校庭

・リンゴ；小さな実がなっている

・サトザクラ；実が見られる

・カイズカイブキ；小さな花と実

◎サンゴジュ；たくさんの食べられた跡が見られる。虫の姿はない。

◎アキニレ；多数の虫こぶ。虫こぶはアキニレハフクロフシ、中に、アキニレヨスジワタムシという虫の幼虫がいる。赤い色もあり、きれい。

・ミカン；つぼみ。ナミアゲハが卵を産みに来ているようだ。他に、レモン、キンカンがある。

◎ヘクソカズラ；金網のフェンスにしっかりと絡みつき、肥大化している。

・ヤブジラミ；金網フェンスの中。ごく小さい花。実になっている。

・センニンソウ；テントウムシの幼虫多数。

・ニワゼキショウ；草地に、いくつか。

◎ナガミヒナゲシ；花は終わり、縦長の実がたくさん。中を割ってみると、細かい大量の種が出てくる

◆おやじの庭（フェンスで仕切られているが、観察可。入るのに注意）

・アメリカフウロ；花。実。両方見られる。

◎カラスノエンドウ；実がたくさんできている。

ナガミヒナゲシ　花と実

ナガミヒナゲシの種

テントウムシの幼虫

ヘクソカズラが金網に

これだけ肥大化する！

※ナガミヒナゲシの大量の種子、カラスノエンドウの実は、秋の「種子散布」と関連付けられる可能性があるので、見せておきたいと思います。